

国際交流事後活動ニュース

マクロコズム '99.1

集 アジア太平洋青年招へい



vol. 26

(財)青少年国際交流推進センター

## アジア太平洋青年招へい (1998.10.21～11.4)

アジア太平洋青年招へい事業は、「平和友好交流計画」の一環として平成7年度から開始され本年で第4回を迎えた。平成10年度の招へい国は、オーストラリア、ブルネイ、カンボディア、中国、フィジー、インドネシア、韓国、ラオス、マレーシア、ミクロネシア、モンゴル、ミャンマー、ナウル、ニュー・ジーランド、パラオ、フィリピン、サモア、シンガポール、ソロモン、タイ、トンガ、トゥヴァル、ベトナムの計23か国で、計113名の招へいを実施した。外国招へい青年は、10月21日に来日、表敬訪問、ホームステイを含めた地方旅行（福島県、大阪府、島根県、山口県、香川県）、課題別視察、国別都内見学及びアジア太平洋青年フォーラム等のプログラムを体験し、15日間の滞在を終了して11月4日に帰国した。



ウエルカム・レセプションで招へい青年と歓談する太田総務庁長官

▼ オリエンテーション会場にて



▲ 明るいトンガの青年たち

## 大好評！ 地方旅行



▲ こけし作りに挑戦！

福島県

大阪府

水族館で楽しい一時



▲ 夏の雪を体験して、大感激。もちろん、雪も初めて！

島根県

▼ ホームステイ・ファミリーと共に



香川県

▼ 小学生は、どこの国でも元気、すっかり仲良くなりました



▲ ガラス作りの作業場で実際に体験

山口県

## 課題別視察

課題別視察を、社会福祉（世田谷区立世田谷福祉作業所、世田谷区立砧工房）、文化（裏千家）、教育（新宿区立市ヶ谷小学校）、生活（日本料理体験）、国際協力及び環境（助オイスカ、国際協力事業団）の5コースに分かれて実施しました。各コースには、日本人のボランティア青年がアテンドし説明に当たったり、通訳の役割を果たしました。また、各訪問先では、とても丁寧な対応をいただき、外国青年も大変喜んでいました。ありがとうございました。

▼ 世田谷福祉作業所にて



▼ 砧工房にて



社会福祉コース



## 文化コース

◀ 裏千家東京道場にて茶道初体験

▼ 着物の美しさに感激



## 生活コース

日本料理作りに挑戦  
◀ ウーン、僕のお国料理も披露したかったな～

# アジア太平洋青年招へい事業を通して見た

## 国際交流事業の効果

### ～ 参加青年の声より ～

本年の10月21日～11月4日に実施されたアジア太平洋青年招へい事業の最終日、11月3日には、評価会を通じて、参加青年から直接意見を聞くことができました。今後の参考のために、彼らの声を紹介します。

#### 〈全体の感想〉

全体の感想としては、評価点4.46（不満1－満足5とし、5段階評価の平均値）ということから、大半の参加青年が事業に参加したことを満足している結果となりました。

事業に参加して良かったと思うこととして、他の参加国および日本に対する理解が深まった点が上位を占めていることがわかります（グラフ1）。2週間という滞在の中で、様々なプログラムを通じ、日本を含めて24か国の文化を直接体験することが、それぞれの国を理解する良いきっかけに

なったと言えます。日本のプログラムの組み方として、「日本」と「参加国」というくくりで考えがちですが、23か国間の交流にも目を向けるべきではないかとも思いました。

#### 〈プログラムの内容～ディスカッションへの期待〉

「国際理解を深めるため、最も有効だったプログラムは？」という問いに対し、アジア太平洋青年フォーラムが1位に挙がりました（グラフ2）。2泊3日をかけ、与えられたテーマにそってディスカッションをするこのプログラムは、この事業の目的の1つとして参加青年の期待は大きいようです。そのため、事業の後半ではなく、前半にもってきて欲しいという意見が多く聞かれました。お互いの意見をぶつけ合い、1つの結論を導き出す作業は、各々を理解する上で重要な場であることがわかります。ディスカッションのテーマとしては、教育・文化・性（ジェンダー）・環境・平和・

#### 主 要 内 容

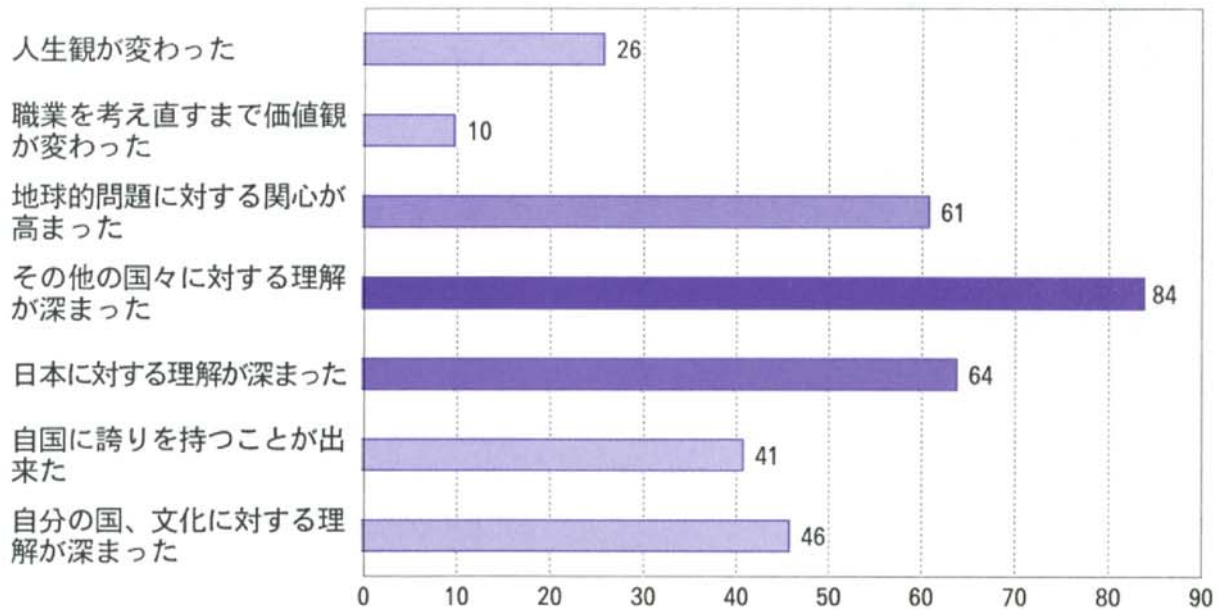
アジア太平洋青年招へい事業を  
通してみた国際交流事業の効果 ……5～8  
スウェーデン交流物語 ……8～9  
「吉岡船尾太鼓シリア公演」  
を実現して ……10～13

アメリカにおけるボランティア活動……14～15  
招へい事業でみる「小学校視察」……15～16  
青少年国際理解セミナーのお知らせ ……19  
「世界青年の船」リユニオン日程変更 ……20

#### 〈表紙の説明〉

「第8回世界青年の船」  
～上岡弘二団長 写真展～  
“青春群像'96”の作品より

## 問1. あなたがこのプログラムに参加してよかったと思うことは？



情報化社会など、身近に感じられるものが多かっただけに、活発な意見交換がなされたことが見受けられます。

この他の上位としては、各国文化紹介、施設見学、ホームステイ等が挙げられました。この結果から、国際交流事業の中には、単なる見学だけでなく、参加者同士が意見交換ができる場面を取り入れることの重要性を感じました。



### 〈地方旅行〉

地方旅行の全体評価としては、4.9。大好評を博しています。各受入県での対応にも満足しており、評価点も4.8をマークしています。また、8割以上の青年たちが、地方と東京の違いを感じており、主な意見としては、東京よりも地方の方が「静かでのんびりしている」「人々が優しい」「自然が豊か」などがありました。

### 〈言葉について〉

言葉による交流についての問いに対しては満足度4.4とやや下がりました。特に自国で英語を使用している青年から、コミュニケーションを取るのが難しかったという声が多く聞かれました。その一方で、筆談や身振り手振りで言葉以上の交流ができたという意見もありました。

別項目で国際交流事業における言葉の重要性について訊ねたところ、4.71と大半が重要と感じて

います。ただし、これは対日本人というよりは、来日している外国青年の中にも、英語を不自由に感じている人がいたので、彼ら自身の気持ちも反映した数字だと思われます。

### 〈国際交流の成果〉

「国際交流は将来の世界平和に貢献するものだと思いますか」という問いに対し、113人中108人がYESと回答しています。特に日本に対するイメージが「戦争」から「友好」に変わったというコメントもあり、この事業の目的がしっかりと達成されていることがわかります。

### 〈今後への提言〉

今後への提言として特徴的なものを紹介します。

- ① スポーツ交流を入れてほしい
- ② 同窓会組織を設立したい
- ③ 来日前の事前研修を各国で実施したほうが良い
- ④ 修了証を発行してほしい
- ⑤ 事業日数を長くしてほしい
- ⑥ 移動時間を短く



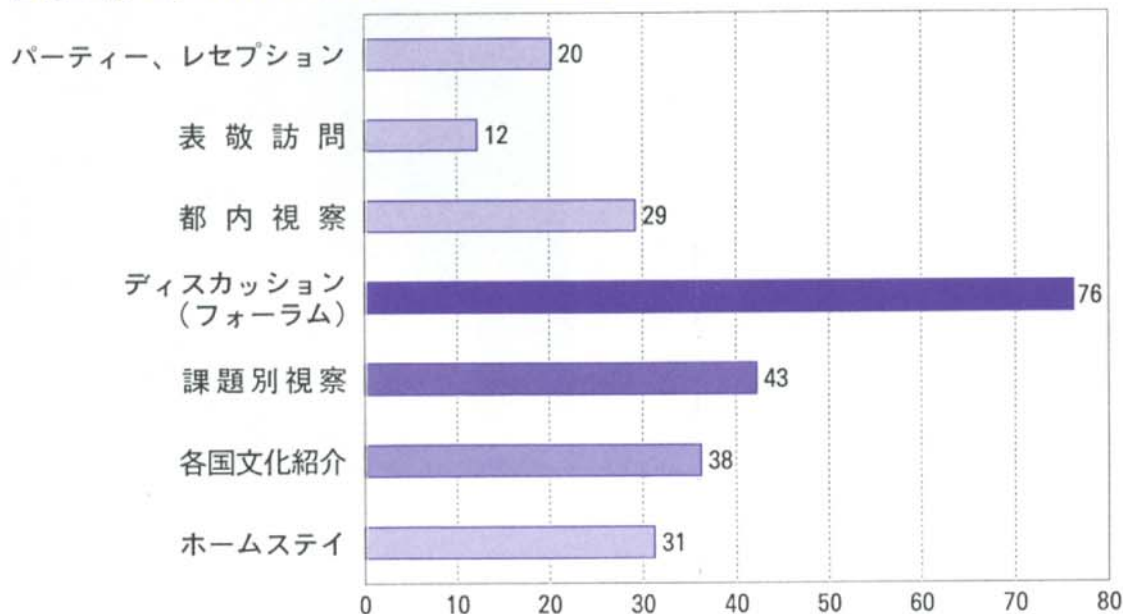
▲ 山口県の小学校

### 〈日本青年の声〉

一方で、今回スタッフとして参加してくれた日本青年の意見も見てください。

都内アテンドを担当したスタッフにアンケートをとった結果、「外国青年と接して文化の相違点について感じたことは」という問いに対し、半数の人が自国文化と似ていると答えています。また、接した国の文化に対する親近感としては、8割以上が、「近く感じる」と回答。「今後同種のプログ

### 問2. 国際理解を深めるのに最も役に立った活動はどれ？



## 岡山県青年国際交流会

ラムに参加したいか」という問いに対しては、ほぼ100%が再参加を希望しています。

このように、参加青年の声をまとめていくと、国際交流事業を組み立てていく上で、いくつかのポイントがあることに気づきました。

1. 参加青年は観光旅行ではなく、その土地の人との交流を期待している

2. プログラムをゆとりあるスケジュールで
3. 移動時間を短くする
4. 言葉の重要性
5. 評価会の実施

以上が1998年の本事業を振り返った結果です。1999年も、素晴らしい交流と出会いがありますように。

1998年8月20日～29日まで岡山県青年国際交流会主催でスウェーデン王国派遣事業が実施されました。この参加メンバーは、総務庁事業参加者ではなかったことで広がりがあったこと、そして何よりもスウェーデン側の受入が、「世界青年の船」

のネットワークを中心としたものだったことは、同窓会活動の活性化のつながる良いきっかけとなりました。

以下、報告書から抜粋したものより、内容をご紹介します。

## 岡山県 — スウェーデン交流物語

実行委員長 村木実由紀

(岡山県青年国際交流会副会長)  
(第6回世界青年の船参加青年)

今回、岡山県青年国際交流会主催の青年海外派遣事業として、スウェーデン王国へ7名の青年を派遣することができました。当会主催の青年海外派遣事業としましては、昨年、一昨年のインドネシア・バリ州に続き、3度目の青年派遣事業となりました。当会は、この度の事業で2つの大きな試みを行いました。

### 〔目的の明確化〕

1つ目は、国際交流に加え、環境・福祉・教育についての研修をするという派遣目的を明確に設定したことです。テーマを明確にし、派遣青年を



▲ ホストファミリーとともに



募集したことにより、意欲ある青年を派遣することができました。現在青年たちは、事前に研修した地元岡山の状況、スウェーデンで見聞、体験し得た知識の中から、自分なりに考え、熱い思いをもって環境・福祉・教育問題に取り組み続けています。これからの青少年を、そして当会を引っ張ってゆく心やさしいリーダーであり続けてくれることと思っています。

### 〔事後活動ネットワークの活用〕

2つ目は、総務庁主催青少年国際交流事業「世

界青年の船」の同窓会ネットワークに現地での受入をお願いしたことです。これは、船を降りてからも広がっていく交流の輪を実感し、事後活動を考える良い機会となりました。

私達の会の活動は、求めなければ、動かなければ、何も始まらず、何もできません。しかし、自らも希望と意志があれば、気負わずに行える民間ボランティアであるという利点もあります。私達だから出来ること、多くの人々を巻き込み、感動を伝える活動にこれからも、チャレンジしていきたいと思っています。

日付	日 程
8/20	日本発／スウェーデン着
8/21	下水処理場・王宮見学
8/22	野外博物館・ザリガニパーティ
8/23	ホームステイ（～27日まで）
8/24	村役場訪問・ボランタリーワーク（老人ケアハウス・環境管理センター） 乗馬・ガンシューティング
8/25	ボランタリーワーク（高齢者サービスセンター・自然保護家宅・小学校・ 学童保育場）鉄鉱石採掘場跡見学
8/26	ボランタリーワーク（障害者リハビリテーションセンター・天然燃料工場・ 保育園・幼稚園）彫刻家宅訪問
8/27	高校訪問・お別れ会
8/28	スウェーデン発
8/29	日本着

篠崎君は、青年海外協力隊員としてシリアでテニスコーチを基本としたスポーツ振興に貢献していましたが、「東南アジア青年の船」の体験から日本文化としての太鼓の紹介を思い立ちました。そこで、日本青年国際交流機構のネットワーク

でボランティアで活動を行ってくれる団体を検討した結果、以前本誌でも紹介した群馬県 IYEO 会員の大島さんが役員をやっている「吉岡船尾太鼓」のシリア公演を実現することができたのです。

## 「吉岡船尾太鼓シリア公演」を実現して

シリア青年海外協力隊員

篠崎 浩信

(第21回「東南アジア青年の船」参加青年)

「吉岡船尾太鼓」のシリア公演についてご報告させていただきます。吉岡船尾太鼓のシリア公演は、9月21日から25日にかけて、シリアの首都ダマスカスと、隣国レバノンの首都ベイルートにて開催され、大盛況のうち、無事公演を終了することができました。日本太鼓の迫力の素晴らしいことながら、この公演にける太鼓の皆さんの気迫も素晴らしく、汗をほとばしらせ、湯気を上げて叩き続けるその迫力に、観衆も息を吞んで聞き入っていました。

▼ アゼムパレスにおける夜間舞台公演



### 日本フェスティバルの企画

私は、太鼓の招致活動と共に、シリアにおける草の根レベルの交流活動を活性化するため、協力隊の仲間を中心に、在留邦人や自分の配属先であるシリアスポーツ連盟、シリア人の友人の協力を頂いて、太鼓の公演日程に合わせてシリア日本月間（シリア文化省、日本大使館主催）に、日本フェスティバル（正式名：シリア日本交流フェスティバル）をパフォーマンス部門と、展示の2部門に分けて開催しました。日本に興味のあるシリアの人達や、シリアの人と交流してみたい、日本の文化を紹介したい、と思うシリア在留の邦人からもボランティアを募り、フェスティバル実行部会を結成して開催準備を進めました。開催を通して、シリア、在留邦人同士の親睦を深め、シリアの人と在留邦人が協力してフェスティバルを大きく盛り上げることができ、市民レベルでのシリアと日本の人的交流を推進することができました。

パフォーマンス部門は9月22日に開催され、協力隊員の配属先や、シリア人ボランティアの協

力を得て、シリア人選手による、柔道、空手などの日本武道の紹介、イスラム圏では珍しい新体操のパフォーマンス、音楽院生徒による日本語による歌、日本で公演したこともあるシリアを代表する民族舞踊団「ゼノビア」による演舞、そして日本在留邦人による合唱など盛りだくさんの内容で行われました。フィナーレでは、みんなで「上を向いて歩こう」を合唱し、最後はシリアの伝統ダンスであるダブケを輪になって踊るなど、人と人とのふれあいを大切に、参加者も観衆も共に楽しみながら幕となりました。

「吉岡船尾太鼓」の皆さんは、フェスティバルの直前リハーサルにて、柔道や空手、歌や踊りのパフォーマンスを披露してくれるシリアの子供たちのために、特別に親善交流演奏会を開催して下さり、子供たちに太鼓を打たせて一緒に演奏するなど、子供たちを大喜びさせていました。

## 大好評の「折り紙」講習会

展示部門は、9月24日、25日の2日間にわたり、場所を日本人補習校に移し開催されました。日本人会の婦人部のご協力を得て、茶道、折り紙展、折り紙講習会を実施しました。折り紙講習会では、シリア人ボランティアに、折り紙の折り方を技術移転(?)し、彼らの協力を得て、多くのシリアの人たちに折り紙の織り方を披露しました。シリアではまだ折り紙が普及されておらず、とても好評でした。私の下宿先の大家さんであるミッシェルには、私が3年前にシリアで生活を始めた時から、機会があるごとに、留学生や友人と折り紙をしてきた甲斐があって、いまではシリア各地の教会の日曜学校で子供たちに折り紙を教えてお

り、今回のフェスティバルでも大活躍でした。

こうして色々な人の暖かい協力を得て、フェスティバルを無事開催することができました。シリアにおいても皆が少しずつ力を出し合えば、こうした交流活動は実現できるということが分かり、自分にとっても大変良い経験を積むことができました。



▲ シリア人女性に茶道を説明する日本人会会長 横山氏(丸紅商事 右から2人目)  
横山さんのサポートがなかったら、フェスティバルも開催は難しかったといえます。準備から開催まで、とてもお世話になりました。ハッピーを着たとでもハッピーな方です。そのとなりは、協力隊調整員

## 多くの人々の協力を得て

フェスティバルを振り返ってみれば、シリアという特殊な事情を持つ国においては、何でも思い通りにできるというわけではなく、イベント開催に際しては多くの人々の理解を得て色々な問題を解決していかなければなりませんでした。

中東和平において重要な役割を持っているここシリアでは、いくらシリア国内の治安が良くとも、隣国にレバノン、イスラエル、ジョルダン、イラク、トルコと多くの紛争を抱えている地域でもあることから、安全面を配慮しなければならず、苦労しました。またフェスティバル開催も当初は人



▲ シリアの子供達に太鼓体験

的にも金銭的にも困難な状況にありました。

しかし、開催することに意味があると考え、小規模ながら手作りのイベントの準備を進めているうちに、シリア日本人会会長である横山氏（丸紅商事）を中心に日本人会の理事の方々に「若い情熱には、最大限応えてあげましょう」と積極的に各方面を調整して頂きました。鏡シリア日本大使のご理解も頂くことができ、日本大使館主催「シリア日本文化月間」のプログラムの一つとして、日本人会主催という形で開催できるようになりました。

しかし、フェスティバルの開催の準備、実施にあたっては、自分達で独自に準備開催をしなければなりませんでしたが、かえってこのことは、日本で勉強や仕事で訪れたことがあり、その際に日本の方々にお世話になったことから御恩返

しがしたいという人、日本の文化をぜひシリアの人に楽しんでもらいたい、というシリア在住の日本人といった熱意のある仲間を積極的に集めることができ、シリア人協力者の人脈によりシリア文化省、シリアスポーツ連盟からの大きなサポートを得ることができたこと、日本人会婦人会のご婦人方の心温かい協力があったことなど、多くの人たちの一生懸命な協力により、草の根的な市民レベルでの交流が実現したことは、大きな喜びでした。

### 国際交流活動の大切さ

交流活動は、わざわざ遠い外国へ行かなくても、日本やシリアにおいても十分できるということ。シリアに在留する日本人一人一人が友好親善大使として、日常の生活を通しながら、シリアの人々

との親善を進めていくことが基本的に大切であり、そして個人レベルだけでなく、日本やシリアに興味や理解を持っているシリア人や日本人達にも積極的に交流に参加できる機会を与えて、みんなで協力して交流を盛り上げていくこと。すべて日本青年国際交流機構の活動で学んだことをここシリアで生かすことができました。

国が行う国際交流事業も、実際に受入プログラムを実行し、参加してくれる人々がいなければ成り立ちません。その意味で、国際交流事業は常に民間ベースのものであり、スポンサーは行政でも、その予算を活かして交流の成果を上げれるかどうか

かは、受け入れに協力する人々の対応によること、そして交流活動を充実、強化させていくためには、交流活動に協力して頂ける方々への支援が大切であると共に、日本とシリアの連携強化が大切であり、そのためには、人的なネットワーク作りが重要ということをよく認識しました。今後は、私もシリアと日本における人的ネットワークの構築に向けて活動し、シリアと日本の交流促進のために尽力し、日本青年国際交流機構や(財)青少年国際交流推進センターの活動にも貢献していきたいと考えています。



# アメリカにおけるボランティア活動の環境

宮崎県青年国際交流機構副会長

荒武 千穂

(第10回「東南アジア青年の船」参加青年)

平成10年6月25日～7月13日、ボランティア活動についての調査のため、宮崎市の姉妹都市バージニアビーチ市とニューヨーク市行って参りましたのでその報告をします。

今回の調査は宮崎市企画課の職員1名、建築指導課1名、宮崎市社会福祉協議会1名、そして私の4名で行きました。バージニアビーチ市はアメリカでも有数のボランティアシステムが確立している都市として有名なのだそうですが、噂どおり素晴らしいものがありました。

## 確立されたボランティア組織

まず、ボランティアの組織がしっかりしていることです。バージニアビーチ市の場合、ボランティア協会が市の組織の中に組み込まれているので市の組織と深く結びついています。ボランティアをしたい人はボランティア協会へ行き、特技や興味のある分野を申込書に記入します。協会では、それにもとづきプログラムを紹介する、といったようにボランティアをしたい人は誰でもできるようになっています。

このように「組織がしっかりしているので素晴らしい」とマリー・ルソーさん(ボランティア協会の共同責任者)に話したら、「私たちは20年前にほんの小さなことから始めたのよ。そして必要なことをどんどんやっているうちにこんなに大き

くなったのよ。」という答えが返ってきました。

バージニアビーチ市のシステムで驚かされるのは、ボランティアの機会の多さです。たとえば、水族館では各コーナーにいて魚の名前を紹介するガイドボランティアもいるし、水槽を掃除したり、魚の餌づけをするダイバーのボランティアもいます。イルカが海に打ち上げられれば、その死因が病気か汚染によるものか調べるのもボランティアです。

そして、このボランティアの機会の多さに伴い、様々な年齢層のひとがボランティアをしているのです。水族館でのガイドボランティアの多くは、高校生や大学生でした。現役の先生もいるし、教師や海軍、陸軍を退職した人もいました。皆忙しいスケジュールの都合をつけて参加していました。このほかにも清掃活動、裁判所、警察、児童相談所、学校等さまざまところでボランティアが活躍していました。

## 緊急医療システムもボランティア!

バージニアビーチ市のシステムが全米ナンバーワンといわれる理由のひとつは、救急医療システムもボランティアで行っていることです。お医者さんもボランティアですし、臨床検査技師も救急医療士もボランティアです。このシステムに対しては、命を助けられた人などから寄付が多いので、

寄付金を処理したり、そのお金で救急医療のための機会を購入する会計処理もボランティアで行っています。24時間体制なので、ボランティアをできる人が自分の都合のいい時間をスケジュール表に記入しておき調整を行います。調整する人も、もちろんボランティアです。

ボランティアをしている人に動機を聞くと、ほとんどの人が「社会貢献をしたいから。」とか「社会に自分の持っている能力をかえしたいから。」を言っていました。このような考え方は、政府に頼れないから自分たちで地域をよくしようとしているのか、と思い、質問しましたが、「政府はよくやっている。しかしボランティアにより高度なサービスが提供できるのだ。」とのことでした。



## 子供のときから

子供たちのボランティアもよく見かけました。でも子供たちも最初から「社会のため」と思ってボランティアをするわけではありません。ミールズ・オン・ウィールズという高齢者や病気のために食事の準備ができない人のために昼食を配達する活動を見にいった時、12歳の男の子が来ていたのでボランティアをしている理由を聞いたら“Dad asked me.”（とうちゃんが頼んだからだよ。）という答えが返ってきました。

子供にとっては、本当の意味でのボランティアではありません。自分の意志に基づいているものではありませんから。でも、こうやってボランティアの大切さやおもしろさを身につけていくのかと思いました。

今回の研修はボランティアのシステムだけでなく、アメリカ人の考え方を学んだ貴重な体験でした。このプログラムに参加できたことを大変感謝しております。

## 招へい事業で見る「小学校視察」の効果

神奈川県青年国際交流機構

杉田 淳

(平成9年度「日韓青年親善交流」派遣団員)

帰国して早一年余。この間、各種事業でアテンドした「小学校視察」の良さと今年度の韓国青年招聘事業で訪問した小学校2校のプログラムについて述べたいと思う。

### 1. 小学校視察の目的

この視察は意外と(?)外国人青年の希望が多く、他事業でも1か所は訪問する人気のコースである。目的は日本の「初等教育の現状視察」であるが、この視点以上に得るものは大きい。また、学校側とし

ては、「国際理解教育」の実践という目的もあるので、それに沿ったプログラムを用意してくれる。

## 2. 平成10年度「日韓青年親善交流」(招へい) 事業でのプログラム

今回の招へい事業では、東京都、栃木県で小学校を訪問した。この2校には私も同行したので、プログラムの内容を紹介したいと思う。

### I. 東京都 新宿区立四谷第四小学校

- (1) 学校概要の説明
- (2) 全校集会 小学生が日本の伝統的な歌や踊りを披露してくれました。  
韓国側からは、韓国青年に流行している歌を披露しました。
- (3) 授業参観 学校全体を見学(書道や音楽の授業には青年たちが積極的に参加)
- (4) 給食 韓国について生徒からの質問が多く出て和やかな雰囲気のもと時がすぎました。

### II. 栃木県 宇都宮市立中央小学校

- (1) 学校概要の説明
- (2) 5・6年生の学年集会参加  
委員会の発表があり、生徒たちの日頃の活動について真剣に話を聞いていた。
- (3) 授業への参加  
1クラスに2～3人の青年が入り、授業体験(とても楽しかったとの声多数)
- (4) 給食  
あるクラスでは韓国での食事作法の話があり、子供たちも驚いていました。



と、以上のような内容ではあったが、学校全体で「国際理解教育」をしているようで、「高学年対象」という枠にとらわれないものであったと思う。

## 3. 良さととは?

この視察の良さととは何か。学校全体で外国の事を知ろうとする雰囲気と、積極的に交流しようとする意識を感じる点が挙げられる。「温良恭謙」という言葉があるが、子供たちが持っている素朴さと、何の抵抗もなく自然に接してくる仕種が、青年たちに好感を抱かせるのではないかと思う。プログラムの中に、全校集会を取り入れてくれる学校では、日本の文化(特に踊りや歌)の紹介をし、青年たちも一緒になって参加することで親近感がわき、(ほぼ全ての学校で)給食を一緒になって食べることで交流がとれる利点がある。

青年たちが小学生から受けたものは想像以上に大きい。しかし、小学生に与えたものもある。それは、我々が派遣国で味わった感動と同じ事柄と交流の素晴らしさを物心が付くときに伝えられたことではないか。



## <知っているると便利な情報>

### I. チョゴリ（韓国服）の貸出しについて

チマチョゴリ（スカート）・パジチョゴリ（ズボン）の貸出し先を紹介します。

在庫はチマは6着、パジは4着で、一団体1着ずつが上限です。貸出し料は、無料。

もちろん、要予約ですので電話で問い合わせ確認して下さい。

貸出し先：財日韓文化交流基金図書センター [TEL. 03-5472-6667]

### II. 国 旗〔世界各国の国旗を貸し出してくれます〕

大きさは、90cm×120cm のもので、使用料は無料、送料負担。要予約ですので、電話にて確認の上、お申込み下さい。

〔国 名〕

日本、韓国、モンゴル、中国、台湾、ブルネイ、フィリピン、インドネシア、タイ、マレーシア、シンガポール、ベトナム、ラオス、カンボジア、ミャンマー、ブータン、ネパール、バングラデシュ、インド、パキスタン、スリランカ、モルディブ、サウジアラビア、クウェート、カタール、アラブ首長国連邦、オマーン、ヨルダン、イスラエル、トルコ、オーストラリア、ニュージーランド、パプアニューギニア、ソロモン諸島、バヌアツ、フィジー、トンガ、西サモア、ツバル、ナウル、キリバス、パラオ、マーシャル諸島、ミクロネシア連邦、ノルウェー、スウェーデン、フィンランド、デンマーク、アイルランド、イギリス、オランダ、ベルギー、フランス、スペイン、ポルトガル、ドイツ、スイス、オーストリア、イタリア、ギリシャ、ポーランド、チェコ、ハンガリー、ブルガリア、クロアチア、ロシア、カザフスタン、カナダ、アメリカ、メキシコ、グアテマラ、エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグア、コスタリカ、ジャマイカ、パナマ、コロンビア、ベネズエラ、ブラジル、エクアドル、ペルー、パラグアイ、チリ、ウルグアイ、アルゼンチン、エジプト、チェニジア、モロッコ、ケニア、タンザニア、マラウイ、マダガスカル、ガボン、ザイール、セネガル、リベリア、コートジボアール、ガーナ、トーゴ、ブルキナファソ、ニジェール、アンゴラ、ザンビア、ジンバブエ、南アフリカ

貸出し先：(社)青少年育成国民会議 国際交流振興部 [TEL. 03-3460-4151 FAX. 03-3460-1603]

## アカプルコリユニオンのお知らせ

第11回「世界青年の船」がメキシコのアカプルコに寄港中、今回も「世界青年の船」インターナショナル・リユニオンが開催されます。

日 程：1999年2月23日～26日

プログラム（案） \*状況により内容が変更する場合があります。

2月23日

8:00 にっぽん丸アカプルコ入港  
13:00 受付開始  
13:30 船上会議Ⅰ  
19:00 船上レセプション  
21:00 下船

2月24日

9:30 11回生との合同会議（調整中）  
12:00 昼食  
13:30 船上会議Ⅱ  
夕食（調整中）／下船

2月25日

会議または自由行動（調整中）

2月26日

16:00 出航見送り

港の出入りが厳しいため、事前に港湾当局に参加者リストを提出します。当日の飛び入り参加はできませんので、ご注意ください。

**参加費** : 船内プログラム参加費 (US\$30.00)

料金に含まれるもの: 船内での会議費・昼食・ティーサービス・レセプション費

**宿 泊** : キャビン数が限られているため、船内宿泊者はメキシコAlumni Association受入れメンバーのみとさせていただきます。

参加者の皆様にはメキシコAAが港近くのホテルを手配いたします。(料金別途)

**交通手段** : 各自で手配をお願いします。ただし、アカプルコ宿泊ホテルから船までの移動につきましてはメキシコAAが手配いたします。(料金別途)

**申込締切** : 1999年1月20日

\*参加ご希望の方は、IYEO事務局にお問い合わせ下さい。詳細をお送りします。

## 第21回青少年国際理解セミナー

## 「国際青年育成交流」「日中、日韓青年親善交流」帰国報告会

平成10年度の航空機による派遣事業の参加青年による帰国報告会が下記の日程で行われます。

総務庁青少年対策本部が行う青少年国際交流事業についての全体的説明コーナーもありますので、他の事業に興味のある方にも声をかけてあげてください。

日 時：1999年1月31日（日） 12:30～16:30（予定）

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター 国際会議室

参加費：無 料

主な内容：中国、韓国、ブラジル、デンマーク、ドミニカ共和国、フィンランド、ドイツ、ヨルダン、ジンバブエをそれぞれ訪問した団員が持ち帰った品々の展示、写真展示、ビデオ上映、事業体験談発表、グループ別懇談等のプログラムが行われますので、気軽にご参加下さい。

## 第22回青少年国際理解セミナー

## 第25回「東南アジア青年の船」帰国報告会

平成10年度の第25回「東南アジア青年の船」参加青年による帰国報告会が下記の日程で行われます。平成11年度の総務庁青少年対策本部青少年国際交流事業の募集説明も行われますので、総務庁青少年国際交流事業について知りたいと思っている友人知人の方々に、ぜひ知らせてあげてください。

日 時：1999年3月13日（土） 12:30～16:30（予定）

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター 国際会議室

参加費：無 料

主な内容：船内及びアセアン各国寄港地（ブルネイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム）での活動を撮影した写真や団員が持ち帰った品々の展示、ビデオ上映、事業体験談発表、グループ別懇談、そしてアセアン各国のパフォーマンス等のプログラムが行われますので気軽にご参加下さい。

申込み先：財青少年国際交流推進センターの「セミナー係」までFAX又は葉書にてお申込み下さい。

当日参加も歓迎ですので、多くの方に広報下さいますようお願いいたします。

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14 東京海苔会館6F

財青少年国際交流推進センター セミナー係

電話 03-3249-0767 FAX 03-3639-2436

## 「世界青年の船」10周年記念船上パーティのお知らせ — 日程変更の件 —

前号（11月号）でご案内いたしました船上パーティの件ですが、下記の通り日程が変更になりました。週末開催でもありますので、1人でも多くの方のご参加をお待ちしております。ご家族、ご友人も大歓迎ですのでお誘い合わせの上、お越し下さいませ。

日 時：1999年1月17日（日） 16：00 第1部 受付  
トーク&トーク「世界船を振り返って」  
18：30～ 第2部 船上レセプション

会 場：東京晴海埠頭「にっぽん丸」船上

会 費：7,000円（当日、会場にていただきます。）

お申込み：

IYEO世界リユニオン係  
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14 東京海苔会館6階  
電話：03-3249-0767 FAX：03-3639-2436

\*氏名・住所・電話&FAX・参加事業を明記の上、郵送またはFAXにて1月11日（月）までにお申し込み下さい。

### 編集後記

アジア太平洋青年招へい、日韓青年親善交流、日中青年親善交流、東南アジア青年の船、「東南アジア青年の船」25回記念招へい、全国推進会

議、全国大会、SSEAYP International総会と2か月間、怒濤のような日程でした。忙しい中で、何か忘れ物をしないように気を付けたいものです。

\*本誌の年間講読をご希望の方は、奨青少年国際交流推進センターまで葉書又はFAXにてお申し込み下さい。年間講読料は1,500円です。

MACROCOSM（マクロコズム） 1月号 Vol.26 1999年1月1日発行（隔月発行）	
編集：マクロコズム編集委員会	編集協力：総務庁青少年対策本部
発行：財団法人 青少年国際交流推進センター	日本青年国際交流機構
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14	定 価：198円（本体189円）
TEL 03-3249-0767	印刷所：株式会社 絢文社
FAX 03-3639-2436	TEL 03-3959-3960
e-mail LDP04056@nifty.ne.jp	

都内視察

日本青年に付き添われての楽しい一日



▲ 中国

トンガ

だれか、お清めの意味を  
▼ 教えてあげたかな？



◀ ミクロネシア  
なにげない場所もみなで  
一緒にいくと楽しいネ

▶ パラオ



サモア

◀ 地下鉄初体験！

▼ ブルネイ



## オーストラリアとの「小学校絵画交流」

「世界青年の船」のネットワークを活用しての小学校同志の絵画交流に兵庫県青年国際交流機構が取り組み、オーストラリアのブリスベーン市の小学校と兵庫県神戸市の小学校との間で絵画交換が実現しました。

写真は、ブリスベーンの小学校に絵が到着して、構内に飾られる際の様子です。詳細は、次号にて！



私も頑張って描くわ！



◀ 校長室の入口に展示されました

